

第186回 エフエム栃木放送番組審議会 議事録

1 開催年月日 平成25年3月7日(木) 11:00~12:00

2 開催場所 宇都宮グランドホテル

3 委員の出席 委員総数 7人
出席委員数 5人

(1) 出席委員の氏名 片山 貴之 (副委員長)
青木 敬信
古磯 勝子
片岡 真理
森内 律子

(2) 欠席委員の氏名 早川 富美子 (委員長)
島田 恭子

(3) 放送事業者側出席者 大森 敏秋 (代表取締役社長)
佐藤 望 (放送部長)
古寺 雄史 (放送部課長)

4 議題 (1) 番組の試聴及び意見交換
(2) その他
(3) 次回開催日程について

5 議事の概要

(1) 番組の試聴及び意見交換

全国15局でネットしているJFNの生放送番組「flowers」内で、平成24年度に計3回放送した「ジャパン・フラワーズ・ネットワーク ～栃木県ブランドPRコーナー」について、試聴と意見交換を行った。

事業者：

これは、平成24年の7月18日、9月27日、そして平成25年の1月23日に放送したもので、東京のスタジオから番組のDJ CHIGUSAが、弊社スタジオにいるリポーターのアトムとクロストークをしながら、栃木県内各地で収録した生の音を交えつつ、全国に栃木県の魅力をPRしました。

【 番 組 の 試 聴 】

委員：

東京のスタジオにいるパーソナリティ chigusa さんとリポーターのアトムさんのクロストークは、互いに相手が見えない中でも、とても自然に聞こえた。また内容も楽しく、とても好感が持てた。

事業者：

この種のリポートは通常、携帯電話の音声でやっているが、今回、弊社のスタジオから専用線の音声を使ったので、音質がクリアになり、とても聞きやすくなった。

委員：

リポーターの説明は、とてもわかりやすく、特に、やまあげ祭りや寒ざらし蕎麦の説明など、原稿を読んでいる感じがなく、自身の言葉で説明していて、内容がとても伝わってきた。全国ネットのパーソナリティにも負けない喋りが出来ていたし、喋り手として、かなり力をつけていると感じた。

事業者：

リポーターのアトムは、ディレクターの作った脚本と構成を理解し、原稿の言葉をうまく臨場感を持って伝えることが出来た。

委員：

リポーターのキャラクターを活かした三択クイズが、とても楽しかった。また、最後のパートに栃木弁を入れ込んで話したのもユニークだった。

委員：

現地で収録した生音を流す演出は、ラジオならではの「音」を活かした番組作りで、とても新鮮だった。

事業者：

毎回、違った音の素材を見つけるのは大変だったが、真の生音を聴かせようと、音響スタッフがこだわりを持って収録をしていた。

委員：

魅力的なリポートで、素晴らしい内容だった。県民の私たちでも今まで知らなかったことを知ることが出来、内容にとても興味を持った。この放送を聴いた県外の人、栃木に行ってみたくなる内容になっていたと思う。

委員：

現地の担当者に説明してもらうのではなく、リポーターが自身の言葉で伝える手法が良かった。また、ラジオならではの切り口で、栃木の情報をうまく伝えていた。現在、数多く放送している地域情報番組にも、今回の放送での成功例をうまく取り入れて、より魅力的な番組作りに務めてほしい。

(以上)

(2) その他
なし

(3) 次回開催日程について

次回の開催を4月4日(木)とすることについて、全出席委員の了解を得た。

6 答申または改善意見に対してとった措置および年月日
なし

7 答申または意見の概要を公表した場合、公表の方法および年月日

(1) 放送 3月31日(日)午後7時55分の「レディオベリーインフォメーション」内

(2) 書面 本社事務所に備え置き

(3) インターネット エフエム栃木ホームページ内

8 その他の参考事項
なし